

好発進を見せた2024年 米国株のリスクを考える

年

明けから好調な米国株市場。1月はNYダウ、S&P500ともに上昇し、いずれも史上最高値を更新している。コロナ、インフレと2つのショックから回復してきた米国株は、このまま順調に推移するのだろうか？この先のリスク要因を見てみよう。

① 政策変更リスク

今年は大統領選がある。共和党政権となった場合には、これまでの政策が転換されることで、ネガティブな影響が出る可能性は考えておきたい。保護主義による経済のグローバル化の後退、脱炭素からの方向転換なども気になるところ。

② 大型株への偏り

米国株は大型株がけん引する流れが続いている。大型ハイテク株の、いわゆるマグニフィセント7がS&P500に占める比率は過去最高の3割近くに達している。これ

らの企業が全て好調なわけではない。モルガン・スタンレーのウィルソン氏は1月にマイアミで開催された投資関連のイベントで、「今ではマグニフィセント4だと考えており、それは業績に関連している」と語っている。

③ 金融緩和への過度の期待

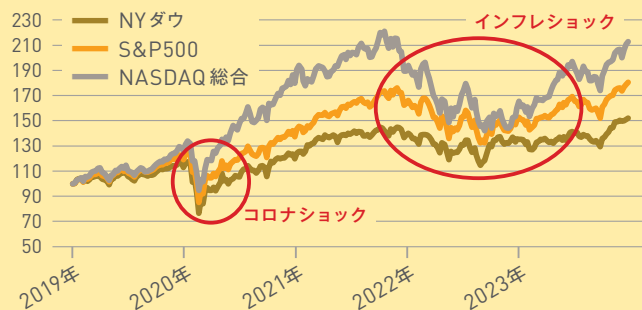
株高の背景には緩和的な金融政策への期待もある。マーケットは、今年中にある程度利下げが進むと予想しているが、FRB関係者は慎重に判断する姿勢を崩しておらず、見方には乖離がある状態。マーケットが楽観し過ぎていく可能性もありそうだ。

力強い経済の回復に加え、円安も手伝って「シンプルな米国株投資」が正解だったコロナショック以降のマーケット。しかし、今年は一筋縄ではいかない可能性もある。グローバル経済の主役とも言える米国株への期待は継続しつつも、様々なスタイルを活用し、リスクをコントロールする必要もあるのではないだろうか。



■ 図表1 米国株の主要指数の推移

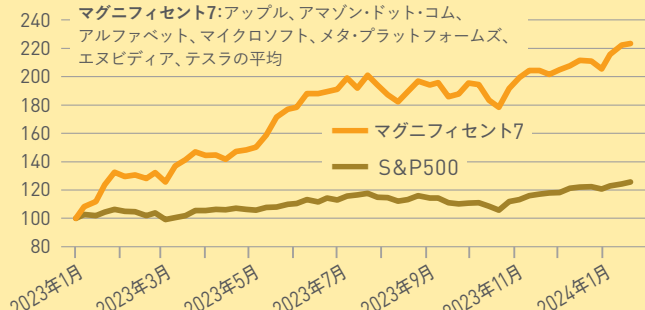
(週次、2019年1月28日週～2024年1月22日週、2019年1月28日週=100)



(出所)QUICKのデータをもとに当社作成

■ 図表2 マグニフィセント7とS&P500の推移

(週次、2023年1月3日週～2024年1月22日週、2023年1月3日週=100)



(出所)QUICKのデータをもとに当社作成

インベスコ
米国株式ダイナミック・マルチファクター・ファンド
 (為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)

愛称：アメリカン・ダイナミック

追加型投信/海外/株式/インデックス型

市場局面ごとにダイナミックに銘柄配分を変化させる上場投資信託証券(ETF)が主な投資対象。様々な相場局面に応じて、米国株式市場の値動きを上回ることを目指します。